

## ◇自分史をほぼ書き終えて

大槻 伸次

十余年前、定年後の暇つぶしを兼ね自分史を書いてみようと思った。そのきっかけは書店の棚を覗いていたら“自分史を書いてパソコン（ワープロ）を覚えよう”というタイトルの本が目にとまったことだった。

興味をそそられ手に取ったら、本の中に CD-ROM が綴じられていた。説明では CD-ROM をパソコンで開き、指示に従って記入し印刷すれば自分史ができるという触れ込みだった。こんな簡単なことで自分史が書けて、パソコンを覚えられるなら一挙両得でやってみようと思った。その後、指南本は買ってはみたがなかなか始まらなかったが、定年を機会に CD-ROM なるものを開いてみた。

最初の記入欄は枠の中に誕生から幼稚園、小学校、中学、高校、大学の名称と入学・卒業年次、学園生活の様子などだった。指示に従って記入してみたが、空欄ばかりで気落ちした。そこで改めて自分の人生を振り返ってみたら、①小・中・高（定時制）時代も含めて、平凡な人生でなんのドラマも無い。②幼稚園、全日制高校、大学の学園生活を知らない。③文章など全く書いたことがない。④定年となったら地区の役職をおうせつかる。等々で自分史の事など、もうどうでもいいとなり忘れてしまった。

その後、愛用パソコンの不調が続き新パソコンに乗換えたのを機会に暫くぶりに CD-ROM を開いてみたが、やはりこのままの形式では書いてみようという意欲が湧かなかった。そこでどんな書き方をすればいいのか見当さえつかなかった。しばらく試行錯誤した中の一策として父が隠居生活の暇つぶしに「葉根木日記」という今日で言う自分史のようなものを書いていたから、そんな類のものでもいいだろうと思った。

（日記とあるが今日でいう人生史・“はねき”とは父の生家の小字名）

私の父が隠居後書いていた頃はまだ、自分史という言葉が聞かなかった時代であるから、そういった意味では父は先進的であったなと思っている。

そこで CD-ROM からのこだわりを止めて、父の「葉根木日記」やダイソーの「ポケット人生史」などを参考に、その時々想いついたことを短編にして書き綴ればと思った。読んでもらう対象は子供達や弟妹達などで、構成は大槻家代々の由来から現代迄で年表も付加した。

短編であれば思いだしたこと、考えていることなどその都度書き足して綴ればいいので、心の負担が少なく思えた。また、遠い過去になればなるほど写真や資料になるものがなく苦労した。そんな中、参考になったのが、中学生後半から記した一行日記、記念になればと保存していた映画館の上映広告や「高校コース」等の学生雑誌、絵葉書、葉その他諸々の雑資料等である。大槻家関連については、父や祖父の昔語りなど参考にした。

父の生家（本家）は代々「名主」を務めた家柄で、先祖は太田高林のお代官「黒田信濃守・くろだしなののかみ」（綱吉の頃？）より土地 300 石を拝領し、名字帯刀を許され「大槻」の姓を賜ったと伝えられている。また、私の祖母（父の母）の実家は江戸時代から昭和 30 年代中頃迄「福病丸・ふくびょうがん」という丸薬を製造して

いた。(明治時代、村の回虫卵検査で家族全員陰性だったと云われている。)

祖母の実家の長持ちの中にはオランダ語の書籍が一杯詰まっていたと父から聞いた。(先祖が長崎で蘭学を学んだ。)

父は何事も研究熱心でおしゃべりが大好きな人で、暇さえあれば昔を語ってくれたが、それも大いに参考になった。家に帰るといつの間にか昔話になり、また同じ話かと霹靂し、仕方なく空返事して聞き流していたこともあった。そうであっても繰り返しの昔語りはいつの間にか自身の頭の中に刻み込まれていた。ところが今となって自分史らしいものを書こうという段になって、もっと詳しく聞いておけばよかったなと後悔している。また、人生史というくらいだから自分自身の人生について、記憶を掘っ繰り返し出来るだけ詳細に書き留めることに努力した。なかでも苦労したのは、子供たちの子育て時代のことがあまり記憶がなく思い出すのに苦労した。子育ては妻に任せっきりだったというのも一因だろう。とにかく最初の書き始めの頃は順調に滑り出し、毎日1頁ずつほど書き進んだから、かなりのペースで進捗し、5年後にはほぼ500頁程になっが、そこに達してから種が尽きてきた。

(最終的に自分史1,000頁余、旅行記と合せA4で1,400頁程共に写真入り。)

種が尽き、そこから試行錯誤しながら現在に至る。その間文章の手直しやレイアウトの見直しなどを進めた。ところが、見直しを始めるとスタートした頃の文章が特に下手糞(現在も同じ)で、こんな文章では子供たちに見せられるものではないなど必死に修正した?また、一気に書き上げたものでないので、後で読み直してみたら以前書いたものと重複した箇所が多々発見された。自分で書いたものを何度見直しても上手く表現できず、書直しの連続だった。その後、国内国外の旅行記を追加した。

旅行記は一部遡っての執筆もあり写真や旅行時に頂いたパンフ等を参考にしたが、再現に苦労した。しかしなんとしても当時を思い出せず書き足りないところが多々あった。そうこうしながら書き続けトータルで10年余りが経過した。

平成24年3月、区長を最後に地区の役職とはさらば、気が付いたら71歳に到達してしまった。役職を離れてからは、区の仲間とのグランドゴルフ少々その他、家庭菜園60坪と孫の面倒を見る位で大したこともせずであったが、それでもあつと言う間に4年経過、75歳到達間近になってしまった。そこで、自分史もそろそろ纏めにかからないと完成もおぼつかなくなるのではと眉毛を湿して纏めに掛かっている。

その他、自分史を書くための動機のひとつであった、自分史を書いてパソコン(ワープロ)を覚えようということについては、ワード(いまだに2003)の豊富にある機能を何とか使えるようになった。その他パソコン全般についてハードとソフトとも何とか使いこなせている。また、パソコンを使用する上でのハード的なトラブル、ソフト的なトラブルも自身でなんとか解決できているから、少しは進歩があったなと自己満足している。